

(様式 4)

NICCO 平 22 第 74 号

平成 22 年 12 月 12 日

在ヨルダン日本国大使館
特命全権大使 塩口 哲朗 殿

公益社団法人 日本国際民間協力会
理事長 小野 了代 (公印略)

日本 N G O 連携無償資金協力 事業完了報告書

平成 21 年 9 月 13 日付日本 N G O 連携無償資金協力贈与契約に基づく「ヨルダン南シューナ郡における女性の自立支援事業」が、平成 22 年 9 月 12 日をもって完了いたしましたので、関係書類を添え、下記のとおり報告いたします。

記

1. 事業の実施期間： 平成 21 年 9 月 13 日 □ 平成 22 年 9 月 12 日

2. 事業の実施成果（要約）：

ア. 申請書に記載した期待する成果とその達成度

- ①活動センターを拠点とし、収入創出活動の充実・拡大に必要な資機材を導入した。また、マーケティングトレーニングや英語コース、役員との定期会議、パソコン研修などの能力開発を実施し、地域開発の拠点としての地位を確立した。
- ②蜂蜜生産や食品加工、手工芸品の生産拡大により裨益者数を増やし、収入創出活動を軌道に乗せた。
- ③南シューナ地域内外の関連企業・団体・店舗の訪問・受入により、ネットワークを構築し、本事業による取組を広く周囲に広めることができた
- ④地方の女性、特に社会的に弱い立場に置かれている未婚の女性や寡婦を中心に収入創出事業を成功させることにより、女性の地位向上に寄与した。
- ⑤蜂蜜源として適した苗木の配布・植林、及び植え付け実習などの実施を通し、地域緑化・砂漠化の防止に貢献した。
- ⑥社会開発省、地方自治体、また養蜂や植林事業で協力を得ている農業省とのネットワークが深まり、行政とコミュニティの連携を強化することができた。
- ⑦蜂蜜や手工芸品の生産・販売を通して、地域住民の収入向上を推進しアンマンと地方で発生している経済格差の縮小への第一歩に貢献した。

イ. プロジェクトの自己評価

本事業は、女性の経済活動への参加と貢献を推進しているヨルダン政府の方針に沿うものであり、女性を中心としたアル・ジャワースレに収入創出活動及び能力開発を実施した妥当かつ有効な事業であったと考える。また、収入創出活動、及びセンター管理・運営のための能力開発が、想定よりも順調に進んだことから、当初 3 年計画であったが 2 年次の本事業をもって完了する。従って、時間・費用

の両面において効率性は非常に高かったと評価できる。加えて、南シューナ内外のみならず海外からの観光客にもアル・ジャワースレ製品を販売したことで、広く活動を広報でき、インパクトも高かったと考える。自立発展性に関しては、パソコン研修、役員との定期会議、養蜂からの収入の積立、他団体との関係構築を通して、本事業終了後にアル・ジャワースレが活動センターの管理・運営を行い活動を継続するための基盤を構築することができたと評価する。

ウ. 今後の方針

自己資金を用いて、日本人・現地スタッフがアル・ジャワースレの活動をモニタリングし、必要に応じて相談に乗りアドバイスを与える。

3. 日本N G O連携無償資金精算額：214, 927. 03 米ドル
(契約額（供与限度額）より 19, 335. 97 米ドルの減)
4. 会計報告：別紙のとおり
5. 外部監査報告書提出予定日：平成 22 年 12 月 12 日

日本 NGO 連携無償資金協力
「ヨルダン南シューナ郡における女性の自立支援事業」
詳細報告書

平成 22 年 12 月 12 日

公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCOD)

1. 事業の実施成果

<プロジェクトの自己評価>

1. 有効性	【プロジェクト目標の達成度】 当初予定では、養蜂、英語教育、植林等のトレーニングを実施し、受講者 300 名以上を対象とすることを目標としていた。事業終了までに、延べ 633 名が各種トレーニングを受講し、伝統工芸品製作・食品加工のスキルを取得、向上させることができた。上記により、当初計画を上回る目標を達成することができた。 【成果の達成度】 ①資機材のセンター導入及び活動センターを運営管理する能力の開発・育成 初年次事業で完成した活動センターにおいて、現地 NGO の収入創出活動の充実・拡大に必要な資機材をセンターに導入し、並行してキャパシティビルディングを行うことで活動を安定させ、地域開発の拠点としての地位を確立することを成果として設定していた。以下、具体的な成果。 ・収入創出活動に必要な資機材を活動センターに導入した。 ・アル・ジャワースレの役員と定期的にミーティングを行い、自立発展性を重んじた事業運営体制を確立すべく、意識改革を図った。 ・アル・ジャワースレの役員を対象に、パソコン研修を通したキャパシティビルディングを行い、今後の組織維持・管理体制の構築を行うことができた。 ・英語コースを開講し、参加者のレベルに合わせ 2 レベルのクラスにて英語授業を行った。述べ 46 名が参加し、当該コースを通して、参加者は基本的な英語でのコミュニケーション能力を身に付けることができた。 上記実績により、当初設定以上の成果を達成したと言える。 ②収入創出活動の拡大 蜂蜜生産や食品加工、手工芸品の生産拡大により、現地 NGO の収入創出活動を軌道に乗せ、生産規模を徐々に拡大することで裨益者数
--------	---

	を増やし、地域全体にその活動と利益が広まり、貧困削減に貢献することを成果として設定していた。以下、具体的な成果。 ・事業地の女性や参加家庭を対象に、収入創出活動を目的とした、養蜂や手工芸、食品加工トレーニング等を合計 41 回実施し、延べ 528 名が受講した。 ・講習やトレーニングにより、参加者は収入源となる製品製作の実用的なスキルを向上させた。 ➤ 手工芸：刺繍小物、藁細工、バナナの葉細工、アクセサリなどを中心に展示会への参加、土産物屋への納品を通し販売を行い、一定の収入を得ることができた。 ➤ 食品加工：製パン、クスクス製作のトレーニングにて得た知識を元に参加者は品質向上を目指し練習を重ね、高品質な製品を作成するスキルを得た。また、近隣家庭や展示会での販売を行った結果、一定の収入を得ることができた。 ➤ 養蜂：第 1 期に引き続き、養蜂専門家による講習会と定期モニタリングを実施したことにより、事業参加者が養蜂に必要な知識と技術を定着させることができた。事業期間中に採蜜を行い、214 キロの蜂蜜を収穫した。また、展示会への参加、他 NGO・関連団体などへの広報を通じ、事業期間中に 89 キロをアル・ジャワースレが販売し、JD1327.5 (=USD1871.768)の収益が得られた。 ・事業参加者が収穫した蜂蜜の 10%をアル・ジャワースレに納め、販売した結果得た収入を運営費として積み立てるシステムを構築したことで、将来に向けアル・ジャワースレの運営が継続的に可能となる基盤を構築することができた。 ・収入創出活動を支えるマーケティング活動の強化を重視し、マーケティングトレーニングを実施した。トレーニングは合計 11 回にわたり、アル・ジャワースレ役員を中心に延べ 59 名が参加した。参加者は、製品の品質向上、マーケティング方法等に関する知識を、演習を含めた実践的な講習を通して体系的に学ぶことができた。 上記の実績により、自立発展性を視野に収入創出活動を拡大し、貧困削減に貢献できた点から、当初設定した成果を達成したと言える。 ③関連企業・団体とのネットワーク構築 南シューナ地域内外の関連企業・団体の訪問・受入により、関連企
--	---

	業・団体とのネットワークができ、また本事業による取組を周囲に広めることで、女性たちの活動の活発化や生產品のマーケティング拡大等を成果として設定していた。以下、具体的な成果。 ・他団体やネボ山の土産物屋 Arts River Shop など商業施設とのネットワークが確立され、情報交換や協力関係の構築が可能となったのみならず、継続的にマーケットとつながり、蜂蜜、アクセサリ、刺繍製品等、製品の受注、供給を実施し収入を得るという体制を構築することができた。事業期間中、Arts River Shop からは他ファンドの事業にて製作方法を学んだ石嶺も含め、250JD の収入を得た。 上記の実績により、女性たちの活動の活発化や生產品のマーケティングを拡大できたと言え、当初設定した成果を達成したと言える。 ④女性の地位向上 地方の女性、特に社会的に弱い立場に置かれている未婚の女性や寡婦による収入創出事業を成功させることにより、女性の地位向上を図ることを成果として設定していた。以下、具体的な成果。 ・①にて上述した通り、活動センターを運営管理する能力の開発・育成を目標に、役員を中心にパソコン研修を実施したことから、活動センターの管理運営を行う基本的な能力を育成することができた。また、英語コースを通して、メンバーは基本的な英語でのコミュニケーションが可能となった。 ・②にて上述した通り、女性を中心とした収入創出活動を実施し、収入を得ることができた。事業期間中の蜂蜜販売、展示会での販売、土産物屋への販売からの収入は、アル・ジャワースレ全体でのべ約 1900JD となった。 ・事業開始当初はセンターでの活動すら家族から反対されていた参加者もいたが、本事業を通して、アンマンにて開催された展示会への参加、アンマンでの市場調査の実施、ネボ山の Arts River Shop オーナーとの交渉等が可能になり、南シェーナ外まで活動範囲を広げ積極的な活動を実施し、周囲からの活動への理解、認知を得ることができた。 ・センター1周年記念及び最終イベントでは、各生産グループリーダーが大勢の来賓を前に活動内容を報告することができた。 上記の実績により、当初設定した成果を達成したと言える。 ⑤植林による蜜源の確保及び地域緑化・砂漠化の防止 蜂蜜採取に適した樹木の植林やハーブの育成を行い、地域緑化と砂漠化防止のモデルとして、ヨルダン渓谷に緑化を広げる第一歩とす
--	--

	ることを成果として設定していた。以下、具体的な成果。 ・センター庭園の整備を行い、環境保全型農業の実地演習として、センターでの植林や野菜・ハーブの植え付け実習を実施し植林やホームガーデン作りに必要な技術移転を地域住民に対して行ったことで、住民の環境への意識向上を図ることができた。 ・蜂蜜の蜜源として適した柑橘類の苗木をアル・ジャワースレ、及び近隣の村に配布し植林したことで、地域緑化・砂漠化の防止に貢献した。 上記の実績により、当初設定した成果を達成したと言える。 ⑥行政とコミュニティの連携強化 社会開発省、事業対象地の地方自治体、また養蜂や植林事業で協力を得ている農業省とローカル NGO を中心とする地域住民との人的ネットワークが構築され、行政とコミュニティの連携を強化することを成果として設定していた。以下、具体的な成果。 ・社会開発省及び南シューナマニシパリティからは、アル・ジャワースレにおける各種セレモニーへの参加、監督省庁としてのサポート、展示会開催の情報提供、土壌供与における協力を得られ、連携が深まった。 ・農業省からは植林事業で協力を得られ、またアル・ジャワースレメンバーの農業省主催ケチャップ、ピクルス作成 WS への参加を通して連携が深まった。また、メンバーは食品加工の更なるスキルを身につけることができた。 上記の実績により、当初設定した成果を達成したと言える。 ⑦首都と地方間の経済格差の是正 首都アンマンと地方で発生している経済格差の是正に向け、地域産業の活性化を図り、地域住民の収入向上により格差の縮小に貢献することを成果として設定していた。以下、具体的な成果。 ・②にて上述した通り、手工芸、食品加工、養蜂トレーニングを通じて、アル・ジャワースレ発の製品を製作することができた。 ・首都アンマンでの展示会参加や、ネボ山の土産物屋 Arts River Sho への商品納入など、本事業から製作された製品を活動地の南シューナ外のマーケットと結び付け市場を拡大することができ、収益を上げることができた。 上記の実績により、当初設定した成果を達成したと言える。 【外部要因の影響】
--	---

	アル・ジャワースレを対象として、他団体のリボン京都が洋裁の技術をトレーニングにて指導することで、収入創出活動の支援事業を実施している。本事業実施に伴い、アル・ジャワースレメンバーの手工芸品製作における能力が向上し、相乗効果を得ることができた。
2. 効率性	本事業は事業計画に沿って資機材の投入、スタッフ雇用及びトレーニング開催を行った。その結果、当初3年にて事業を完了させる計画であったが、第2フェーズである本事業をもって事業を完了することとなった。理由としては、収入創出活動、及びアル・ジャワースレが活動センターを管理・運営するために必要なキャパシティビルディングが、当初想定よりも順調に進み、第2フェーズをもって目標としている成果をあげることができたためである。従って、本事業の効率性は非常に高かったと評価できる。
3. インパクト	・参加者が収入創出活動で得た知識を元に、食品加工品や手工芸品を近隣家庭に販売したことで、収入を得られただけでなく、アル・ジャワースレの製品が地域に浸透した。 ・南シューナ内外の他 NGO・関連団体とのネットワーク構築を強化したことにより、アル・ジャワースレの活動に対する認知が高まった。 ・観光地のネボ山に、アル・ジャワースレの手工芸品を納品することで、収入を創出したのみならず、海外からの観光客にもアル・ジャワースレ製品、及び活動を広報するきっかけとなった。
4. 自立発展性	・本事業終了後に、ローカル NGO アル・ジャワースレが活動センターの管理・運営を行い活動を継続するために、アル・ジャワースレ役員の運営管理能力を向上させるべく、初年度に引き続き役員を中心にキャパシティビルディングを行った。具体的には、パソコン研修を実施し、Microsoft 製品の使用方法、メール送受信方法、インターネットの使用方法を学び、団体運営・管理能力を向上させることができた。 ・役員の定期ミーティングを開催し、役員間の結束を高めると共に、アル・ジャワースレの管理・運営に対する意識を高めることができた。 ・展示会への出展及び大型土産物屋とのネットワーク構築を通して、アル・ジャワースレが将来的にも活動を継続することのできる基盤を整えることができた。 ・養蜂事業参加者が、収穫した蜂蜜を一定の割合にてアル・ジャワースレに納め、販売して得た収益を運営費として積み立てる体制を構築することで、持続的に活動を実施していく基盤を整えるこ

	とができた。
5. 事業の妥当性	【受益者ニーズとの整合性】 本事業地域のヨルダン南シューナ郡は貧困地域として指定されており、収入創出活動の拡大は参加者からの強い要望であった。当要望に沿い、養蜂、伝統工芸品製作、食品加工等各種トレーニングを開講し、スキル向上を目指すと共に、マーケティング活動にも力を入れ事業を実施した。 また、南シューナ地区では行われていない成人向けの英語教育に対する強い要望があったことから、英語コースを事業に取り入れた。参加者のレベルに合わせ２クラスを開講し、授業を実施することで参加者が英語にて基本的なコミュニケーションをとることができるようになった。 上記観点から、本事業の受益者ニーズとの整合性は非常に高かったと言える。 【受入国の政策との整合性】 ヨルダンの「国家アジェンダ（2006～2015年）」では、貧困・失業問題の改善が最重要課題の一つにあげられている。特に2007～2012年の第1段階では、職業訓練や雇用支援に注力する計画で、女性の経済活動に対する差別の撤廃が掲げられており、女性の経済活動への参加と貢献に期待が寄せられている。また、政治発展の分野においても女性のエンパワメントが掲げられ、女性の地位向上及び社会進出が課題になっている。 事業地であるヨルダン南シューナ郡は、ヨルダン政府により貧困地区に指定されており、失業率も高い。失業率が高い当該地域にて、女性を中心に活動しているローカル NGO アル・ジャワースレを援助対象とした本事業は、受入国との政策とも合致し妥当であったと考える。 【プロジェクトのアプローチの適切性】 本事業の3年間の上位目標は、環境教育や植林活動を通し環境保全型経済活動のモデルをつくるとともに、活動センターでの収入創出活動の管理体制の強化を図り、アル・ジャワースレが自立して活動を継続していく体制を作ることであった。 当目標達成のために、本事業では、蜜源となる柑橘類の樹木の配布・

	植林、各種トレーニングの開講と並行して、マーケティング活動の実施、及びアル・ジャワースレ役員のキャパシティビルディングを行い、環境保全型経済活動のモデル構築、及びアル・ジャワースレの自立発展性を念頭に置いた包括的なアプローチにて事業を実施した。従って、アプローチは適切であったと言える。
6. その他 社会的影響（女性、環境）、住民参加等	・ 地方の村で社会的弱者である女性が主要な受益者であった。 ・ センター1周年記念及び最終イベントに、在ヨルダン日本国大使、その他ヨルダン政府要人に出席して頂き、その模様が新聞でも取り上げられたことにより、対象地はもとより、ヨルダン全土に対し、事業を広報することができた。

<事業終了後の方針>

事業終了後は自己資金を用いて、日本人・現地スタッフがアル・ジャワースレの活動をモニタリングし、問題が発生した場合等は相談に乗り、アドバイスを与えることができる体制を構築する。また、アル・ジャワースレの活動の発展に有益になることがあれば便宜供与を図り、アル・ジャワースレのネットワーク構築に協力をする。

事業内容説明写真

事業名：ヨルダン南シューナ郡における女性の自立支援事業（第2フェーズ）

事業期間：2009年9月13日～2010年9月12日

1. 収入創出活動の拡大

第1フェーズ事業にて実施した伝統工芸品や食品加工製作に関するトレーニングを引き続き実施し、品質の向上とオリジナル商品の開発に力を入れた。

【アクセサリー、伝統刺繍小物】



講師の指導の下、アクセサリー製作のトレーニングの様子。講師が持ち寄ったサンプルや雑誌からデザインのヒントを得る



ネックレスの他にブレスレット、ピアスのセットを製作するなど、素材、デザインを工夫し数種類のサンプルを作成



左：刺繍作品（ブックカバー）、右：販売用の刺繍商品、展示会での陳列の様子

【バナナの葉細工】



左：バナナの葉を使った工芸品細工のトレーニングの様子。講師（右側グレーの服着用の女性）から編み方の指導を受ける参加者

右：写真左下の水の入ったたらいで一度葉を柔らかくし、細かい細工を施していく



左：バナナの葉細工でブックカバーを作成中、右：ブックカバーの完成作品と参加者



左：ワークショップ時の講師のサンプル（写真左側）と参加者がワークショップ後に作った作品（写真右側）。

右：ワークショップ時の講師のサンプル（裏地が白い布のカゴ）を参考にし、形やデザイン、編み方、裏地を工夫し、参加者がオリジナル作品を作り上げた

【食品加工・クスクス】



左：講師が中央でデモンストレーションを行い、それを取り囲んで調理方法を学ぶ参加者

右：講師のデモンストレーションの後、参加者が同じように実践する



左：クスクス調理専用の鍋を使い、水の入った鍋の上でクスクスを蒸す。

右：講師（写真左）から説明を聞きレシピをメモに取る参加者



左：クスクスの完成品（鶏肉と野菜の煮込みをおかずにする）

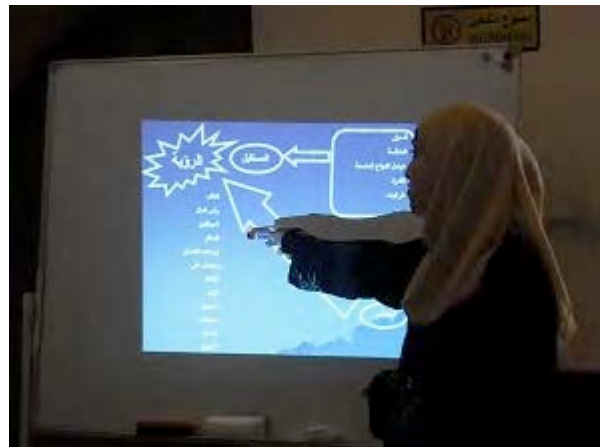
右：販売用のクスクス、展示会での陳列の様子

【ビジネストレーニング（マーケティングコース）】

アル・ジャワースレの女性たちによる伝統工芸品や食品の生産活動を、確実に収入につなげるため、マーケティング支援の一環として、ビジネストレーニングを実施した。第2フェーズ事業では、「商品開発」と「マーケティング」のコースを計画し、前期は「商品開発」コース、後期は「マーケティング」コースを実施した。



5日間に渡りマーケティングコースの講義を実施した。マーケティングの概念や重要性から、市場や商品、価格、トレードマーク、流通戦略や商品広告の実施方法、ターゲットとなる消費者の開拓からインターネットを通じた販売についてまで、マーケティングに関する知識を身に付けた。



左：講義中、グループに分かれて意見交換をする

右：グループで話し合い、まとめた意見をグループのリーダーが発表する

【ビジネストレーニング（英語教育）】

ビジネストレーニング及びキャパシティビルディングとして、英語教育を実施した。受講者のレベルに合わせて2クラスを開講。マーケティングを行うにあたり必要となる商品の説明や接客の場面を想定し、数コマ授業計画に取り入れた。



左：英語授業の様子

右：イベント用に作成した英語版の商品のチラシを元に、英語で商品の説明ができるよう講義をする講師

【マーケティング活動】

マーケティング活動として、商品の広報を兼ね主にアンマンを中心に開催される展示会やイベントに積極的に参加した。展示会では、NICCO スタッフがラッピングの方法、商品の陳列方法、接客方法をアドバイスすることで、接客経験の少ないアル・ジャワースレ女性たちも徐々に慣れ、自分たちで作り上げた商品を堂々と説明する姿が見られた。



Agriculture is our Tradition Exhibition 出展の様子

左：アル・ジャワースレの展示ブース 右：ヨルダン農業省の農業大臣が展示ブースを視察した



Souq Al Balad Farmer's market 出展の様子（アンマン市内にて）
 蜂蜜のラッピング方法、陳列方法をアドバイスする日本人スタッフ（プロジェクト・マネージャー松永）



左：アル・ジャワースレの展示ブース。アル・ジャワースレ役員たちが接客に当たる
 右：アル・ジャワースレの会計担当（左）と商品の蜂蜜を購入した消費者（右）



農業省主催の Exhibition 出展の様子

左：アル・ジャワースレの展示ブース

右：商品を並べるアル・ジャワースレの会員（陳列方法、蜂蜜の試食を取り入れるなど消費者に足を止めてもらえるような展示方法を工夫する）

観光地ネボ山の大型土産物屋でのマーケティング活動に成功し、店の一角にアル・ジャワースレの商品コーナーを設けた。



土産物屋の一角に置かれたアル・ジャワースレの商品（アクセサリー）

左：土産物屋の店員（写真右）より、どのようなデザイン・形が売れるのか等情報共有を行う現地スタッフ（写真左）

右：土産物屋を訪れたイタリア人観光客へアル・ジャワースレの商品について説明する日本人スタッフ（プロジェクト・マネージャー松永）

2. 養蜂事業の拡大

第2フェーズ事業では養蜂事業の拡大に向け、地域住民に合計30セットの蜂箱を配布した。併せて養蜂の知識を身につけるため、蜂の生態や病気について養蜂専門家による講習会を実施した。



左：養蜂専門家による参加者に向けた講習会



右：養蜂専門家（写真中央の男性）の指導のもと、採蜜の方法について学ぶ参加者



左：地域住民に配布した新しい蜂箱（参加者へ配布までセンター近くの農園にて保管していた）とそれらをモニタリングする日本人スタッフ（プロジェクト・マネージャー大塚）



右：保管していた農園から参加者の庭に蜂箱を届けた様子（蜂の活動が静まる日暮れから配布を開始した）



養蜂専門家による定期モニタリングの様子



左：アル・ジャワースレ活動センターに置いている攪拌機を使い、蜂の巣から家庭で採れた蜂蜜を抽出する養蜂参加者

右：販売用の蜂蜜、展示会での陳列の様子

3. 植林による蜜源の確保及び地域緑化・砂漠化の防止

養蜂事業の拡大に合わせた蜜源の確保と、地域緑化及び砂漠防止を目指し、地域家庭へ樹木の苗木を配布した。



蜜源の確保として配布した苗木を管理する養蜂参加者の庭の様子、蜜源となる苗木レモン、オレンジ、ラベンダー、ハーブ、ローズマリー等を配布した

4. 自立的な事業運営体制の確立（現地 NGO のキャパシティビルディング）

センターの自立発展的な運営を可能とする体制作りを行うため、アル・ジャワースレの会員を中心とする現地女性の能力強化を図るべく、ミーティングや PC トレーニング（アル・ジャワースレの役員対象）を実施した。



PC トレーニングの様子。センターの運営や商品の管理をデータで管理できるよう、ワードやエクセルの基礎からインターネットやメールの使い方まで現地スタッフが講師となって指導した。



左：アル・ジャワースレ役員との定期ミーティング



右：アル・ジャワースレ会員とのミーティング

その他

【アル・ジャワースレ活動センター周年記念イベント】

ヨルダンや日本の政府関係者、これまでアル・ジャワースレの活動に関わった関係者、地域住民が参加。アル・ジャワースレのこれまでの活動紹介の後、商品の展示・販売が行われた。



左：各生産グループのリーダーが活動の様子について発表した



右：在ヨルダン日本国大使のスピーチの様子



左：商品展示スペースの様子

右：当日はメディアも取材に訪れ、アル・ジャワースレ代表、日本人・現地スタッフ、在ヨルダン日本大使館吉田書記官が取材を受けた。

【道路標識の設置】

事業終了後もアル・ジャワースレの活動を地域社会へアピールできるよう、活動センター近くの主要道路から活動センターを示唆する道路標識を設置した。



道路に設置したアル・ジャワースレの看板を確認する日本人スタッフ（プロジェクト・マネージャー松永）

日本NGO連携無償事業資金収支表

団体名:公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

事業名(実施国):ヨルダン南シューナ郡における女性の自立支援事業(第2フェーズ)(ヨルダン・ハシェミット王国)

自 2009年9月13日 至 2010年9月12日

	連携無償	自己資金	証憑番号	
			(連携無償)	(自己資金)
【収入の部】				
総収入	234,263.00			
【支出の部】				
1. 現地事業実施経費	132,078.13	5,430.21		
(1) 現地事業費	47,908.43	142.65		
(イ) 資機材・施設・役務の調達費	28,670.92	0.00	A-1～A-156	
(ロ) 会議セミナー等開催費	8,413.07	0.00	A-157～A-255	
(ハ) 専門家派遣費	10,824.44	142.65		
派遣専門家旅費、内国旅費、謝金	9,652.11		AD-1～AD-6	
派遣専門家日当、宿泊費	1,172.33		A-256～A-258	
派遣専門家海外保険		142.65		BD-1～BD-2
(2) 事業管理費	84,169.70	5,287.56		
(イ) 現地スタッフ人件費・雇用費	26,022.20	0.00		
現地スタッフ(コーディネーター2名)	19,146.03		A-259～A-284	
新規雇い上げ費(英語教師・活動センター夜間警備)	6,876.17		A-285～A-305	
(ロ) 現地事務所借料	10,026.87	0.00		
アンマン事務所賃貸料(共益費含む)	7,488.81		A-306～A-321	
アンマン事務所光熱費	676.48		A-322～A-340	
活動センター光熱費	1,861.58		A-341～A-395	
(ハ) 通信費	3,024.93	0.00	A-396～A-455	
(ニ) 旅費・移動費(車両借料)	18,978.11	0.00	A-456～A-530	
(ホ) 印刷費(インク代含む)	1,241.46	0.00	A-531～A-536	
(ヘ) 人材派遣費	24,876.13	5,287.56		
派遣スタッフ旅費、内国旅費	8,170.19		AD-7～AD-12	
派遣スタッフ宿泊費	16,705.94		A-537～A-542	
派遣スタッフ旅費(一時帰国)、ヨルダン居住ビザ・労働許可証申請料		1,478.67		B-1～B-6
派遣スタッフ海外保険		3,808.89		BD-3～BD-11
2. 本部事業実施経費	75,262.32	516.67		
(1) 本部スタッフ人件費	74,029.54	516.67		
派遣スタッフ人件費	51,272.71		AD-13～AD-39	
本部スタッフ人件費	22,756.83	516.67	AD-40～AD-55	BD-12
(3) 通信・輸送料	533.28	0.00	AD-56～AD-72	
(6) 雑費(事務用品購入費)	699.50	0.00	AD-76～AD-78	
3. 外部監査費	7,586.58	0.00		
ヨルダン側外部監査費	141.24		A-543	
日本側外部監査費	7,445.34	0.00	AD-79	
総支出	214,927.03	5,946.88		
残高	19,335.97	0.00		